

令和4年度

北杜市環境保全事業実施報告書

No.1

団体名	NPO法人甲斐駒清流懇話会
事業名	環境保全事業（砂防校外授業）
事業概要	毎年、夏の時期に行う白州・武川小学校の児童と父兄に対して行う環境保全に関する授業。台風による土砂災害の被災体験者からの講話、自然災害体験車や建設重機の試乗等、災害時の心構えなどを学ぶ環境教育です。地域の自然や溪流環境を知り、災害の歴史を親子で学ぶ伝統的な授業です。今年度はコロナの影響が続くため、授業内容を縮小して開催しました。

1. 収入の部

内 訳	決算額
自己資金	343,853
他の助成金・補助金	200,000
合 計	543,853

2. 支出の部 (単位：円)

内 訳	決算額
委託費（設営等）	272,635
重機借入経費	198,000
ボランティア経費	56,000
保険料	3,000
会議費	4,230
消耗品費	8,698
資料印刷	
通信費	1,290
合 計 (A)	543,853

※収入の合計と支出の合計は一致させること
補助金の交付額

229,000 円

$G=(A-B) \times 2/3$	但し、補助金 交付決定額以下
----------------------	-------------------

別紙1

北杜市環境保全事業実施報告書

団体名	甲斐駒清流懇話会
事業名	環境保全事業（防災フェア&甲斐駒清流ウォーク）
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	昭和34・57年の台風による土砂災害の歴史の伝承と自然災害への心構えを道の駅を訪れる一般の方を対象に、自然災害体験車の試乗や消防署の協力を得て高所作業車の見学や災害時の写真展示などで自然環境や土砂災害への関心を持ち、当会の環境保全活動を知ってもらう事業である。はくしゅう道の駅を利用して参加者に呼びかけを行った。また甲斐駒ヶ岳の山麓の溪流環境を楽しんで歩くウォークも開催した。
備考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

1 収入の部

内 訳	決 算 額
他の補助金・助成金	100,000
参加料	
寄付金・協賛金	5,000
その他	21,700
小 計(B)	
自己負担金	576,219
合計	702,919

2 支出の部

(単位：円)

内 訳	決 算 額
委託費（設営等）	234,278
委託費（警備）	43,780
ボランティア経費	48,000
ポスター等印刷費	185,350
広告費（配布含む）	122,958
通信費	4,090
材料費	59,193
消耗品費	770
保険料	1,500
謝礼料	3,000
合 計 (A)	702,919

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること
補助金交付額 (G)

384,000円

$G = (A - B) \times 2/3$ ただし、補助金
交付決定額以下

別紙 1

北杜市環境保全事業実施報告書

団 体 名	甲斐駒清流懇話会
事 業 名	環境保全事業（新しい川づくり委員会）
事業概要 ※実施内容、事業 期間等を記入し てください。	新しい川づくり委員会は、溪流環境の環境保全と土砂災害に 関する伝承や砂防に関する環境学習を中心に地域の環境保全 を考える活動を進めている。例年行う溪流祭り、人口産卵河 川メンテナンスなどはコロナの影響を受け中止したが、現地 研修会は首都圏外郭放水路の見学を実施、河川美化活動や広 報資料作りやPR活動を実施した。また、はくしゅう道の駅内 にある活動拠点としている東屋の改修を行った。
備 考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

1 収入の部

内 訳	決 算 額
他の補助金・助成金	
参加料	
寄付金・協賛金	
その他	
小 計 (B)	
自己負担金	567,965
合計	567,965

2 支出の部

(単位：円)

内 訳	決 算 額
事務所使用料	60,000
バス代	177,870
見学料	25,000
研修費	55,000
会員用キャップ製作費	91,300
会議費	1,200
通信運搬費	26,369
消耗品費	11,797
材料費	25,000
薬剤	10,671
修繕費（資材等）	50,000
ボランティア経費	30,000
保険料	2,828
手数料	930
合 計 (A)	567,965

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること

補助金交付額 (G)

378,000円

$G = (A - B) \times 2/3$	ただし、補助金 交付決定額以下
--------------------------	--------------------

K S K

Kaikoma seiryuu konwakai

令和5年4月1日

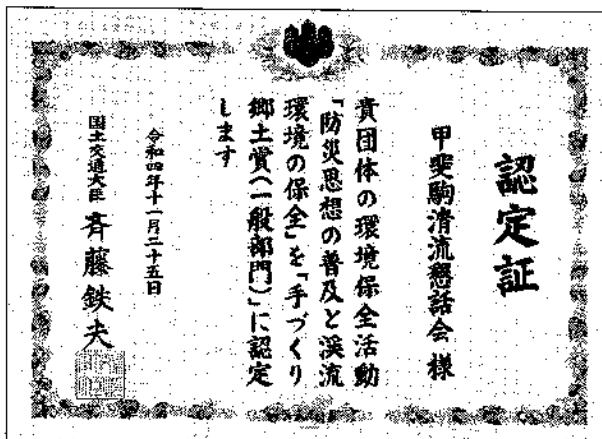
甲斐駒清流懇話会

北杜市白州町台ヶ原195-5

発行責任者 遠山・日向

甲斐駒清流懇話会は令和4年5月に10年間のNPO法人としての甲斐駒清流懇話会を解散し、元の任意団体の環境活動団体に戻りました。活動の内容そのものは変えず、これまで通りの活動を継承して環境保全活動を進めていくことになりました。

当会は白州町・武川町を中心に広く地域の発展のために、以来25年余りの年月を環境保全活動に尽力してまいりました。北杜市地域は昭和34年・57年の台風による土砂災害で大きな被害を受け、白州・武川地域に起きた富士川支流の土砂で河川が氾濫し、地域の街並みはことごとく崩壊し多くの人命、家屋、田畑を失う甚大な被害を受けました。その後河川の改修が進み、溪流環境が保管理され、安全な生活が営まれる環境になりました。然し近代はオゾン層の減少による地球環境の温暖化や気候変動が世界中に大きな影響を与え続けています。これまで人々が経験したことのない熱波や大洪水が起き、異常気象によって起こる災害、豪雨がもたらす土砂災害等、世界各地が大きな自然災害に見舞われています。この現状を見据えつつ、私たちの団体はこの白州・武川地域に起きた自然災害の歴史や街の伝統的な文化や暮らしを伝承しつつ、災害に対する日頃の心構えなど防災思想の普及を行うことを主たる目的として、美しい溪流環境や災害から暮らしを守る新たな地域づくりをするために活動を進めています。年間の事業は一般県民を対象に防災フェア&甲斐駒清流ウオークを開催、地元の小学校の児童と父兄を対象に開催する砂防校外授業、道の駅「はくしゅう」の人工の小川を利用して溪流に棲む魚ヤマメを放流し、子供たちがつかみ取りを行う溪流祭り、小武川の源流域に造った人工産卵河川でイワナやヤマメの生息域を作り、その環境を児童のための教育に生かそうと考えています。そのほか自然災害の被災地見学や街づくりの先進地への研修、河川美化活動などすべての環境活動と環境教育は行政、企業、地



域住民や学識経験者とともに協同で開催していきます。長い間の活動の実績により令和4年度は国土交通省から「ふるさと郷土賞」の認定を受け、令和5年2月に北杜市において大臣表彰を受賞いたしました。このことは当会の長期に渡る活動が認められたと甲斐駒清流懇話会会員一同の誇りとなり今後も継続して防災思想の活動に力を入れる原動力になりました。

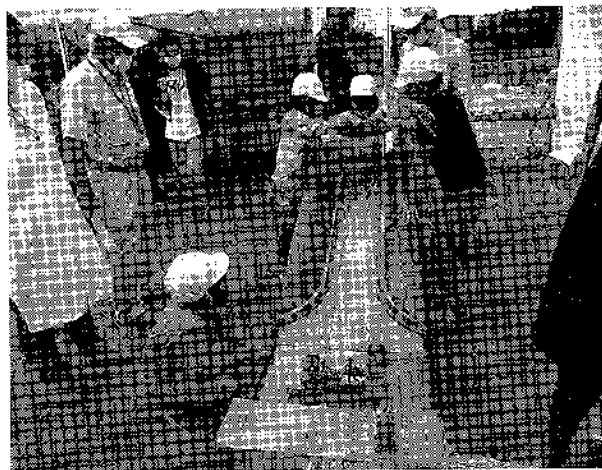
当会の活動はここ数年、コロナ禍により事業推進が難しくなりましたが最近の社会状況は少しずつ良い方向に変化してきており、人々の日常も通常の生活に戻りつつあります。令和5年は従来通りの活動が再開されるものと期待しています。

○令和4年度の事業報告

例年通りの事業計画を立てましたが、第6波、第7波、第8波とコロナの感染拡大が収まらず、事業の中止が続き、昨年度は防災フェアと砂防校外授業と県外研修会が開催できました。

○砂防校外授業

令和4年6月3日（金）北杜市武川町三吹 大武川堰堤の復興記念公園「ゆらみず」にて砂防校外授業を開催しました。昨年は11月に開催していましたが、コロナ禍の影響も少しずつ改善されてきましたので6月の土砂災害防止月間に開催できました。武川小学校・白州小学校の児童とその保護者と教諭含め約80名が参加して、3Dの自然災害体験車で疑似体験や建設重機への試乗をし、土砂災害模型での実験を行い、被災経験者からの体験談を聞き、砂防事務所からの自然災害の講座を企画していただきました。親子で自然災害への実態や災害に対する恐怖や身を守ることの大切さを学んでもらいました。この親子で学ぶ砂防学習は毎年行われ、両小学校の伝統行事となっており、児童の親からは毎年期待される授業になっています。



○防災フェア&甲斐駒清流ウォーク

令和4年6月4日（土曜日）白州町 はくしゅう道の駅構内にて開催しました。

会場には自然災害体験車、実験模型、健康チェックのテント、消防署から新型高所作業車などが並

び、地域の特産物の販売所も設けました。コロナ化が続き開催が危ぶまれていましたが、何とか開催でき多くの参加者が災害の学習や災害の疑似体験をしていきました。また、甲斐駒清流ウォーク・フォトラリーも同時に開催し、地元の住民や常連のファン、観光に来た人々の飛び入り参加等、多くの参加者がコロナ対策の検温や健康度チェックなどを受けてウォークに出かけていきました。



○溪流祭りはコロナの感染者が再び増えてきたので中止しました。

はくしゅう道の駅で毎年行なわれて来た溪流祭りは令和4年度も中止になりましたが、このイベントが行われる道の駅の会場「東屋」が痛んできたため、今年度は改修工事を計画し、11月に会員総出で竹を組んで作る屋根のため百本以上の竹を切り出して干しました。その後屋根の取り換えと屋台骨の支柱を取り替える予定です。



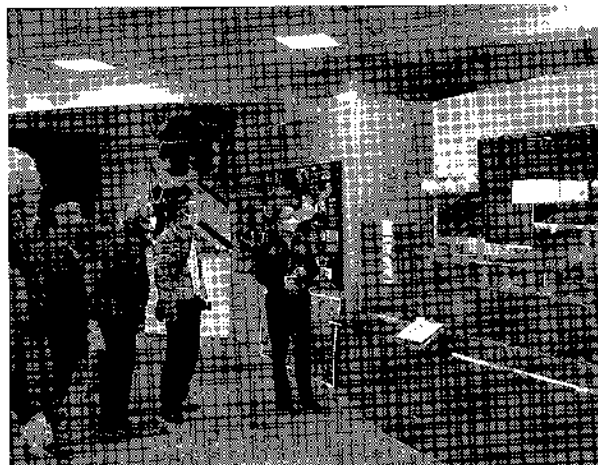
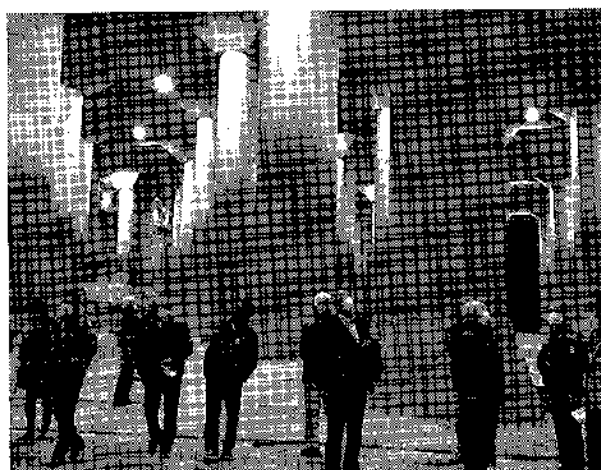
○人工産卵河川のメンテナンスは復旧作業が終わり、イワナやヤマメの姿が小川に戻りつつあったので現状維持のまま、令和5年度の秋に草刈りや川底の整備を行うことにしました。人工河川への導入部の道も広くなり、見学路も安全に通ることが出来るようになったので、令和5年度の秋には子供たちを招

いて、ヤマメの産卵状況などが見学できる環境教室を計画したいと考えています。



○県外研修会 首都圏外郭放水路の見学会実施

しばらく県外への研修会・見学会をコロナの影響を受け、中止していましたが今年度は埼玉県春日部市にある国土交通省の首都圏外郭放水路の見学に行きました。参加者は会員と一般の参加者含め23名が参加しました。日本の重要都市である首都圏の水害を防ぐために造られた施設で、広大な敷地に建てられています。洪水時の水の勢いを弱め、スムーズに江戸川へ放水するために作られました。地下22mの位置にある建造物の中は評判の地下神殿と呼ばれる巨大な調圧水槽であり、高さ18m、幅2m、重さ200tの柱が59本、水槽の天井を支える見事な防災施設です。国内最大級の排水ポンプは排水量50m³/sを誇る巨大ポンプでインペラと呼ばれるガスタービンの回転させる排水能力は最大1秒間で25mプール1杯分の水を排水できるそうです。参加した会員一同、地下神殿の高い天井を見上げるばかりでした。



○東京支部主催 現地研修会（長野県内）

ここ数年コロナ禍のため中止していましたが今年は長野県内各地の水害にあった地域の現地視察を実

施しました。R3年の水害にあった茅野市の下黒沢川、岡谷市のIII18年・R3年の水害にあった小田井沢川、塩尻市奈良井宿の土石流災害（奈良井宿の入り口にある太鼓橋の下が土石流で埋まっており、改修工事が続いていた。）松本市の牛臥川の重要文化財になっているフランス式の階段流路工（現地ではボランティアで川の流れや周辺の環境を保全管理する仙人のような老人に行き会いました。）その後、松本市の薄川と筑摩神社の水止めの石を見学しました。各見学地域には諏訪大社の本宮や春・秋社、下社等の背景に水の流れにまつわる話や水害の歴史があり、地元の人々が諏訪神社と水の歴史を大切にしていることがよくわかりました。東京支部の見学会は長野県庁に在籍している砂防課長の林氏の丁寧な案内で各地域の土石流の被災地を見て回りました。林氏は前富士川砂防事務所の調査課長です。



○河川美化活動

例年、大武川の堤防や復興記念公園の周辺の草刈りを春と秋に行います。令和4年度は5月、6月、10月に行いました。復興公園の周辺は毎年手入れをしているので桜の並木も順調に育ち、春は桜が咲いて河川公園らしくなり、災害の復興の記念モニュメントの周辺でキャンプや魚釣りをする人などの利用者も増えています。会員の努力で植樹や休憩用の木材などを設置して、公園としての環境も整えています。近年地域の人々が安心して川遊びに利用できるようになりました。



○毎年開催している事業の令和5年度の予定

- ※ 総会 5月
- ※ 砂防郊外授業 6月2日(金)
- ※ 防災フェア&甲斐駒清流ウォーク 6月3日(土)
- ※ 溪流祭り 8月又は9月の土曜日
- ※ 人工産卵河川メンテナンス&環境教室 10月
- ※ 被災地見学会 10月
- ※ 台ヶ原 宿市参加 10月
- ※ 活動報告会 11月

○会員・賛助会員の募集をしています。

会の活動の趣旨に賛同の方は是非、活動を応援してください。正会員、賛助会員いずれも大歓迎します。正会員は事業の活動・運営に協力していただき、賛助会員は会の活動に支援をいただき、会が催すイベントにすべて参加できます。また毎年会が発行する情報紙をお送りします。入会は常時でき、退会も自由です。会費は下記のようになっています。

入会時 1000円 正会員の年会費：個人 3000円・法人10000円

賛助会員入会金はありません。個人 1口1000円～3000円・法人10000円

入会申込先：北杜市白州町台ヶ原159-5 地域活性化センター山村広場休憩室内

甲斐駒清流懇話会事務局あて

※申し込みされた方には後日振込用紙を送らせていただきます。